

2022年度  
事業報告書

2022年 4月 1日から  
2023年 3月31日まで

公益財団法人緑の地球防衛基金

## 2022年度事業報告書

### 〈事業活動〉

#### I 地球上の生態系に深刻な影響を与える森林破壊や砂漠化を防止するための緑の保全・再生に関する調査研究及び活動並びにその推進のための助成事業（公益目的事業1）

##### 1. ベトナム・ラオカイ省環境保護植林事業

当基金は、2020年4月にベトナム政府との間で覚書を締結し、「ベトナム・ラオカイ省環境保護植林事業」を開始しました。

上述の覚書の内容は、(1) 事業実施期間は2020年4月から2025年3月までの5年間、(2) 植林面積は15ヘクタール、(3) 植林本数は3万本、(4) 植林樹種は、馬尾松（ばびしょう：別名タイワンアカマツ）2万7,000本及びカントンアブラギリ3,000本の混種、(5) 事業実施計画は1年目に15ヘクタールの植林を実施し、2年目以降に育林及び施肥、必要に応じて補植する、(6) 当基金は年間100万円、5年間で最大500万円を限度に資金助成を実施するというものでした。

同事業は、2020年度～2021年度順調に進捗しました。馬尾松とカントンアブラギリ合わせて3万本の植林は2020年度に終了し、2021年度は、馬尾松3,000本の補植や除草等のメンテナンス作業が進められました。

3年目を迎えた2022年度は、以下のとおり、事業が進捗しています。

##### (1) 馬尾松の生育状況：

馬尾松は順調に成長しています。樹木の活着率は90%以上に達しています。2020年に植林した馬尾松の樹高は約1.3m～1.6mに達し、2mを超える木もあります（2023年2月現在）。2021年には3,000本の補植が行われましたが、安定して順調に成長しています。

植林の技術設計上、活着率が85%を超えれば追加して補植する必要はないため、2022年度には更なる補植は行われませんでした。

##### (2) カントンアブラギリの生育状況

カントンアブラギリは、種子から育てているため成長が遅く、乾燥や雨不足などの現地の気候条件にも左右され、順応に時間がかかっています。2021年、2022年に何度も播種しましたが活着率は50%にとどまり、2020年10月～11月に直播されたカントンアブラギリの樹高は平均で約0.6m～1mにとどまっています。2023年4月と5月に、本数は未定ですが、追加で植える予定であると、ベトナム側から報告がなされています。

### (3) 除草の状況：

2022年3月と9月の2回、下刈りが行われました。周囲の植物の伐採、根の養生、枯れ木の除去などが行われました。除草は、30人～40人がナイフやツルハシなどの農具を持って作業します。全員が同時に周囲の雑草やブドウの木を取り除き、苗木が光合成と発育に最適な状態になるように作業しました。

2023年度には、3～4月頃と8～9月頃の2回、除草（下刈り）を行う予定です。

### (4) 助成金の交付、進捗状況等の確認

当基金からは、覚書に基づき、2022年4月に100万円の資金助成を実施しました。

なお、ベトナム政府は、新型コロナウイルス感染拡大への対策として厳格な入国管理を実施していたため、2022年度はベトナムへの入国ができませんでした。2023年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染状況を見つつ、本件事業の進捗状況及びベトナム政府側の今後の対応予定の確認等のため、当基金から現地に役職員の派遣を検討する考えです。

## 2. 中国陝西省榆林市横山県東陽山における日中緑化協力事業

中国での3回目の植林事業となる陝西省榆林市東陽山緑化事業は、2012年11月東京において、当基金と横山県（当時。現在は横山区）との間で、日本の外務、農林水産、環境の各省関係者立会いの下に「造林に関する覚書」の署名・交換が行われました。この覚書に基づき、2013年から2020年までの8年間、横山県東陽山において、25ヘクタール、1万400本の造林が行われ、予定どおり2020年に終了しました。

ただし、本件事業の終了当時、中国政府は、新型コロナウイルス感染拡大への対策として厳格な入国管理を実施していました。そのため当基金からの入国が事実上できず、事業の進捗状況の確認及び終了式典の実施等が未実施のままでした。この状況は2022年度も同様でした。

今後、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、中国への入国に支障がなくなった場合で、かつ、中国側から記念碑の建立及び式典の開催等に関して前向きな意見が表明された場合には、当基金からの役職員派遣を検討する考えです。

## 3. 新たな植林事業の検討

2018年度にタンザニアに対する支援、2020年度に中国に対する支援が相次いで終了し、代わりとなる新たな植林事業を国内外において検討してきました。海外においては、前述のベトナム・ラオカイ省環境保護植林事業を開始しており、本件事業終了後もベトナム政府の意向を確認し、ベトナム国内で新たな支

援を検討する考えです。一方、国内においては、道東における「虹別コロカムイの会」の事業を当基金の事業候補としてこれまで検討してきました。しかし、2022年に理事長が現地を訪問した際、「虹別コロカムイの会」の会長から、「近い将来に標茶町が提供する河畔林候補地が不足し、町有林の植林が縮小されることが予想される。」旨の発言がありました。「虹別コロカムイの会」の事業は、シマフクロウの直接の保護事業と河畔林整備の2つに分けられます。その1つの河畔林整備が減少することは、植林を謳い文句とする当基金の事業とすることはふさわしくなく、この事業を当基金の直接の事業とすることをあきらめざるを得なくなりました。

こうした経緯から、国内においては新たな支援対象事業の検討を引き続き行っていく考えです。

## II 地球環境の保全に関する調査研究及び活動並びにその推進のための助成事業（公益目的事業2）

### 1. 2023年度「地球にやさしいカード」の助成団体の決定

SMB Cファイナンスサービス株式会社（旧株式会社セディナ）の「地球にやさしいカード」による2023年度助成団体について、2022年8月1日から9月30日までの2か月間、ホームページ等で募集を行ったところ、16団体（新規3団体、継続13団体）から応募がありました。11月に開催した審議委員会において、新規3団体はいずれも委員の評価が低く助成対象としないことで一致するとともに、継続13団体はいずれも引き続き助成することで一致しました。その後、同月に開催した理事会で、審議委員会決定どおりに可決されました。

2023年度の助成13団体は次のとおりです。

- 認定NPO法人FoE Japan
- NPO法人熱帯森林保護団体
- NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク
- NPO法人立山自然保護ネットワーク
- NPO法人夏花
- NPO法人サンクチュアリーエヌピーオー
- NPO法人桶ヶ谷沼を考える会
- 上総自然学校
- 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金
- 真庭遺産研究会

- 虹別コロカムイの会
- 熱帯林行動ネットワーク
- NPO法人NPOクワガタ探検隊

(参考) 審査の方法については、提出された申請書類の不備等を先ず事務局において確認しました。各審議委員には4つの審査項目について1点から3点までの評価点(最高で合計12点)を団体毎に記入してもらい、4人の審議委員の評価点を集計し、審議委員会全体として助成の適否を決めています。

審査集計表(全体)

No.	団体名	評価合計	助成の認定
1	F o E J a p a n	38	可
2	熱帯森林保護団体	41	可
3	尾瀬自然保護ネットワーク	46	可
4	立山自然保護ネットワーク	41	可
5	夏花	35	可
6	サンクチュアリエヌピーオー	40	可
7	桶ヶ谷沼を考える会	42	可
8	上総自然学校	38	可
9	トラ・ゾウ保護基金	38	可
10	真庭遺産研究会	40	可
11	虹別コロカムイの会	44	可
12	熱帯林行動ネットワーク	38	可
13	NPOクワガタ探検隊	35	可
14	(新規) モザンビークのいのちをつなぐ会	21	不可

15	(新規) 日本オランウータン・リサーチセンター	19	不可
16	(新規) netom	25	不可

## 2. 「地球にやさしいカード」団体への2022年度助成実績

SMB Cファイナンスサービス株式会社の「地球にやさしいカード」の寄付による2022年度助成総額は、14団体、1,004万16百円となりました。2022年度助成14団体への配分額は次のとおりです。

団 体 名	助成金額
認定NPO法人FoE Japan	258万93百円
NPO法人熱帯森林保護団体	85万81百円
NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク	65万63百円
NPO法人立山自然保護ネットワーク	50万45百円
NPO法人夏花	75万25百円
認定NPO法人ヒマラヤ保全協会	45万74百円
NPO法人サンクチュアリエヌピーオー	62万40百円
NPO法人桶ヶ谷沼を考える会	42万17百円
上総自然学校	51万31百円
認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金	82万40百円
真庭遺産研究会	30万60百円
虹別コロカムイの会	81万91百円
熱帯林行動ネットワーク	40万96百円
NPO法人NPOクワガタ探検隊	30万60百円

また、各助成団体の2022年度の活動は、次のとおりです。

### (1) 認定NPO法人FoE Japan (地球温暖化を抑える事業)

(テーマ：日本の地球温暖化対策強化・エネルギー政策転換のための提言・普及啓発活動)

途上国で起きている気候変動の影響について調査し、気候変動の緊急性を訴える活動や、足元からできる省エネ活動の調査・紹介を行いました。2022年度は、気候変動の国際会議COP27の開催に合わせて、現地で提言活動や記者会見などを行いました。また、高校など内外で講演活動も行いました。さらに、気候変動・エネルギー政策に関して、積極的に提言活動を行いました。

(2) NPO法人熱帯森林保護団体 (熱帯林を守り育てる事業)

(テーマ：ブラジル・カポトジャリーナ先住民保護区の消火・防火を目的とする消防団事業)

世界的な気候変動と乱開発により、アマゾンの森は急速に減少の一途を辿っています。カポト・ジャリーナインディオ保護区では、火災から森を守る目的で、3名のインディオリーダー、約30名の若者による「インディオ消防団」が組織されており、これまでの活動振りはブラジル国内でも高く評価されています。当該団体はこの消防団を支援しており、消火道具、防護服等の物資供与等の支援を行っています。

(3) NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク (尾瀬の自然を守る事業)

(テーマ：自然環境教育事業、尾瀬の自然保護に関する調査研究事業、自然環境保護に関する普及啓発事業)

尾瀬国立公園において、9回の現地活動(延べ38名)を行い、外来植物相調査や野鳥基礎調査を実施しました。また、尾瀬アカデミーを開講し14名のインタープリターが誕生しました。冬期は東京ビッグサイトで「エコプロ」の出展、「ぐんまの自然の今を伝える報告会2021」へのポスター出展など、幅広い自然保護活動を継続実施しました。

(4) NPO法人立山自然保護ネットワーク (立山連峰の自然を守る事業)

(テーマ：立山黒部アルペンルート沿線の外来植物除去事業及び啓発活動)

立山地域の標高1,000m～2,450mの範囲で、オオバコやセイヨウタンポポなどの外来性植物約4万株を除去したほか、約1万本の花茎や花穂を除去して種子散布を防ぎました。長年の努力の結果、外来性植物の繁茂を概ねコントロールできている地点が少しずつ増えています。また、春・秋には富山県内で自然観察会を開催し、啓発活動に取り組みました。

(5) NPO法人夏花 (白保のサンゴを守る事業)

(テーマ：沖縄県石垣島白保地区におけるサンゴ礁保全活動)

白保海域は世界的にも有名なアオサンゴ群集が広がっていますが、海水温の上昇や赤土の流入によって危機的な状況にあります。今年度は、地元の子どもたちと一緒に、赤土流出対策として畑の周囲に植物を植えるグリーンベルトの植栽活動や、サンゴ調査、ビーチクリーン活動を行いました。また、サンゴや海の状態を観察するため、白保海域に観測点を30ポイント設けて赤土堆積量調査も継続実施しています。

(6) 認定NPO法人ヒマラヤ保全協会 (ヒマラヤの自然を守る事業)

(テーマ：ネパール中部ダウラギリ地方における果樹栽培の持続型アグロフォレストリーの展開)

1974年から半世紀にわたってヒマラヤ山麓で伐採された跡地に山岳部住民と植林活動をしており、2014年には累計100万本の植林を実現しました。2021年は、自然林の減少しているネパール北部ダウラギリ州で10,000本の植林活動を実施しました。さらに、現地で強く要請されている果樹・換金作物栽培(キウイ、レモン、ブルーベリーなど)の栽培指導を行っています。

(7) NPO法人サンクチュアリエヌピーオー (ウミガメを守る事業)

(テーマ：遠州灘海岸におけるアカウミガメと産卵地の環境保護と調査活動)

アカウミガメの保護調査活動は35年目を迎えました。アカウミガメの保護・繁殖調査や子ガメの観察会を通じて啓発に努めるとともに、プラスチックゴミの回収などビーチクリーンアップを実施して海岸環境の向上に取り組みました。また、海岸浸食を防ぐための海浜植物による砂浜回復事業や、環境教育の推進などにも取り組みました。

(8) NPO法人桶ヶ谷沼を考える会 (トンボの保護区を守る事業)

(テーマ：静岡県磐田市の桶ヶ谷沼におけるトンボの種の保全と自然環境保護活動)

トンボの楽園「桶ヶ谷沼」には、絶滅危惧種ベッコウトンボをはじめ70種のトンボが確認されています。しかしベッコウトンボの個体数調査によると、2020年度23頭、2021年度67頭から、2022年度は380頭に回復したものの、依然として絶滅の危機にあるため、特別増殖場の設置・管理など、保全と増殖に取り組んでいます。子どもたちに活動を伝える「おけがや自然塾」も5年目になりました、

(9) 上総自然学校 (トンボの保護区を守る事業)

(テーマ：千葉県袖ヶ浦市におけるトンボの保護区の保全、里山再生)

里山の保全・育成・改良に取り組んでいます。2022年度は、田んぼの体験イベントを行ったほか、休耕田の一部に水を引いて水深の浅い池を作りました。専門家による生態調査を毎月実施するほか、センサーカメラで常時調査を行っています。夏には夜間調査も行い、千葉県の生物多様性センターに報告しています。



(10) 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金 (アフリカ象を守る事業)

(テーマ：アフリカゾウ密漁防止のための、国内象牙市場閉鎖に向けた活動及び政策提言)

年間2万頭以上の密猟というアフリカゾウの危機を伝え、象牙のハンコを買わないで、と訴えてきました。今年度は、フランスのリヨンで開催されたワシントン条約常設委員会に登録オブザーバーとして参加し、関係国に国内象牙市場閉鎖を追求することの重要性を働きかけるとともに、会議に先立ち、日本の国内象牙市場に対する規制の実効性を検討した新たな報告書を公表するなど、国際社会と協調して象牙市場の閉鎖に向けて取り組みました。

(11) 真庭遺産研究会 (地球温暖化を抑える事業)

(テーマ：岡山県真庭市を拠点とした、真庭清流自然学校による日本最大級のオオサンショウウオの生息地での環境保全活動)

真庭市北部は、広大な面積で「オオサンショウウオ生息地」の指定を受けていますが、個体数の減少が進んでいます。山乗川、植杉川などオオサンショウウオの繁殖地となっている溪流河川において、生息環境調査を進めるとともに、観察会など自然体験型環境学習プログラムを実施することができました。

(12) 虹別コロカムイの会 (地球温暖化を抑える事業)

(テーマ：北海道標茶町等におけるシマフクロウ繁殖と河畔林造成)

北海道各地に生息するシマフクロウは、開発等により現在約165羽程度に止まり危機的状況にあります。当該団体は、シマフクロウが生存しやすい環境づくりのため、1994年から毎年5月に「シマフクロウの森づくり百年事業植樹祭」を開催しています。また、西別川の河川清掃や、巣箱の清掃・点検、シマフクロウの餌となる鮭を保護するバイカモ保全活動等にも取り組みました。

(13) 熱帯林行動ネットワーク (地球温暖化を抑える事業)

(テーマ：インドネシアにおけるオランウータン保護活動の基盤強化に向けた植林活動)

2022年度は、インドネシアの現地カウンターパートであるオランウータン保護センター(COP)主導のもと、前年に植樹したラバナン演習林での生育状況の確認に加え、周辺住民の協力を得て約1,000本の郷土種及び果樹を追加購入し、植樹しました。また、2021年度から着手したタスク村に新設される保護施設周辺において、果樹を中心に約2,000本の植樹を行いました。

(14) NPO法人NPOクワガタ探検隊 (地球温暖化を抑える事業)

(テーマ：大都市大阪の里山に舞え！未来の森の守り人)

当該団体は、北摂大阪の里山を舞台に、〈共生・畏敬・感謝〉の自然観に基づき、「未来の森の守り人」を育成しています。2022年度は、創作紙芝居の上演や、各家庭で飼育増殖したカブト虫&クワガタ虫を元の里山に返す「カブト虫&クワガタ虫里親飼育塾」を実施しました。また、明治の森箕面特定公園において、地域コミュニティや近畿中国森林管理局と協働して、クヌギの苗木の植樹を実施しました。

### Ⅲ 地球環境の保全に関する普及啓発事業（公益目的事業3）

#### 1. 機関紙（緑の地球新聞）の発行

基金の情報を発信するために、会員等を対象に年4回発行している「緑の地球新聞」を継続発行するとともに、その内容の充実に取り組みました。

緑の地球新聞第156号（2022年4月5日発行）

- 着実に成長を続けている馬尾松、カントンアブラギリ  
ーベトナム・ラオカイ省植林事業の2021年活動報告ー
- 「地球にやさしいカード」助成団体の2022年度の活動予定
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

緑の地球新聞第157号（2022年7月5日発行）

- 防砂防風林が出来つつある中国東陽山緑化事業  
ー2021年活動状況フォローアップ報告ー
- 2020年度の温室効果ガス排出量（確報値）は11億5,000万トン
- 奇想天外な技術革新 ー燃えない木材づくり
- 役員の変更と大石理事長の再任
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

緑の地球新聞第158号（2022年10月5日発行）

- 森林破壊の現状と要因、私たちにもたらす影響
- （お知らせ）「地球にやさしいカード」助成事業 第14回研究・活動報告会の開催
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

緑の地球新聞第159号（2023年1月5日発行）

- 「地球にやさしいカード」助成事業 第14回研究・活動報告会を開催
- 新年のご挨拶 理事長大石正光
- 2023年度「地球にやさしいカード」の助成13団体決まる
- COP27及び関連会合が閉幕 新たな森林イニシアティブの立ち上げ
- （コラム）COPとは
- たくさんの使用済み切手などありがとうございました

## 2. 環境諸問題研究・活動報告書の作成・配布

当基金の目的である「わが国を含め地球上の緑及び緑に依存して生息する野生生物の適正な保護」等に沿って、1年間の研究・活動実績を取りまとめた「2021年度環境諸問題研究・活動報告書」を、2022年6月に作成しました。

写真をカラー印刷にして現地の雰囲気などを少しでも感じていただけるよう工夫するとともに、多くの皆様に活動状況を知っていただくため、会員をはじめ各国立大学図書館などに無料配布を行いました。

### 2021年度環境諸問題研究・活動報告書の内容

- |  |                             |
|--|-----------------------------|
| ○順調に進捗しているベトナム・ラオ<br>カイ省植林事業                       | (公財) 緑の地球防衛基金               |
| ○防砂防風林が出来つつある中国東陽<br>山緑化事業－2021年活動状況<br>フォローアップ報告－ | (公財) 緑の地球防衛基金               |
| ○気候変動・エネルギー問題に関する<br>活動報告                          | 認定NPO 法人<br>F o E J a p a n |
| ○カポトジャリーナ先住民族保護区の<br>消火・防火を目的とする消防団事業              | NPO 法人<br>熱帯森林保護団体          |
| ○尾瀬の豊かな自然を後世に伝えるた<br>めに－尾瀬の野鳥基礎調査                  | NPO 法人<br>尾瀬自然保護ネットワーク      |
| ○立山の自然を守るための活動を継続                                  | NPO 法人<br>立山自然保護ネットワーク      |
| ○白保のサンゴを守る   | NPO 法人夏花                    |

○ヒマラヤ保全協会2021年度活動報告	認定NPO 法人 ヒマラヤ保全協会
○ウミガメの保護と海岸環境を守るために	NPO 法人 サンクチュアリエヌピーオー
○2021年度「トンボの保護区を守る」活動報告	NPO 法人 桶ヶ谷沼を考える会
○上総自然学校活動報告2021	上総自然学校
○ゾウを守るための活動報告2021	認定NPO 法人 トラ・ゾウ保護基金
○シマフクロウを守る	虹別コロカムイの会
○日本最大級のオオサンショウウオの生息地における環境保全活動	真庭遺産研究会
○インドネシアにおけるオランウータン保護活動の基盤強化に向けた植林活動	熱帯林行動ネットワーク
○NPOクワガタ探検隊2021年度活動報告	NPO法人 NPOクワガタ探検隊

### 3. ホームページによる情報公開

当基金のベトナム・ラオカイ省植林事業をはじめ、中国等における植林活動等の状況などの掲載内容を大幅に更新しました。当基金の運営内容及び財務資料等をインターネットで積極的に公開し、公正で開かれた活動を推進することにより、会員、寄付者をはじめ、国民の植林への啓発にも努めました。

## 〈管理部門〉

### 1. 会員

2022年度は、入会5件（個人4件）に対して退会は3件（個人3件）で、差し引き2件増加し、2022年度末の会員数は134人／団体（前年度末132人／団体）となりました。その内訳は、個人会員118人、法人会員16団体件です。

### 2. 寄付

2022年度の寄付は、法人・団体702万7千円（前年度782万9千円）、個人59万6千円（前年度47万9千円）の総計762万3千円（前年度830万9千円）でした。

そのうち、使用済み切手、書き損じハガキ、未使用切手などの物品寄付は126万7千円（前年度107万9千円）となりました。

なお、50万円以上を寄付した法人・団体は、SMBCファイナンスサービス株式会社、株式会社ECC、ラサ商事株式会社、MS&ADシステムズ株式会社、NPO法人ジャパン・カインドネス協会の4社・1団体となっています。

### 3. 理事会の概要

2022 6月 3日

- 議題 1 2021（令和3）年度事業報告書案及び同決算書案に関する件
- 2 理事の推薦に関する件
- 3 審議委員会委員の委嘱に関する件
- 4 基本財産の取り崩しに関する件
- 報告 1 理事長の業務執行報告について

2022 6月27日

- 議題 1 仮議長選任の件
- 2 理事長選定に関する件
- 3 業務理事選定に関する件
- 4 常任理事選定に関する件

2022年 11月29日

- 議題 1 2023年度地球にやさしいカード助成対象団体選定に関する件

2023年 3月 6日

- 議題 1 職員給与の引き上げ及び「職員給与規程」の一部改正に関する件  
2 常勤役員の2023（令和5）年度報酬額引き上げ及び「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」の一部改正に関する件  
3 2023（令和5）年度事業計画書（案）及び同収支予算書（案）に関する件  
4 基本財産の取り崩しに関する件  
5 審議委員会委員の委嘱に関する件
- その他1 理事長及び常任理事の業務執行報告について  
2 ベトナム・ラオカイ省環境保護植林事業2022年活動報告について

#### 4. 評議員会の概要

2022年 6月23日

- 議題 1 議長選任の件  
2 議事録署名人選任の件  
3 2021（令和3）年度事業報告書案及び同決算書案に関する件  
4 理事の選任に関する件  
5 基本財産の取り崩しに関する件
- 報告 1 審議委員会委員の委嘱に関する件

2023年 3月27日

- 議題 1 議長選任の件  
2 議事録署名人選任の件  
3 職員給与の引き上げ及び「職員給与規程」の一部改正に関する件  
4 常勤役員の2023（令和5）年度報酬額引き上げ及び「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」の一部改正に関する件  
5 2023（令和5）年度事業計画書（案）及び同収支予算書（案）に関する件  
6 基本財産の取り崩しに関する件
- その他1 審議委員会委員の委嘱について  
2 ベトナム・ラオカイ省環境保護植林事業2022年活動報告について

## 5. 審議委員会の概要

2022年11月15日

議題 1 議長選任に関する件

2 2023年度助成対象団体の選定に関する件

## 6. 常勤役員の2022（令和4）年度報酬額等

大石正光理事長の報酬額は、月額35万円年額420万円、賞与額70万円（年2回7月期、12月期に支給）の合計490万円の支給（前年度同額）としました。

## 7. 理事長及び業務執行理事の業務執行報告

理事長の業務執行報告が2022年6月3日の理事会で、また、理事長及び常任理事の業務執行報告が2023年3月6日の理事会で行われました。

## 8. 職員の状況

2023年3月末現在、事務局長1人、事務局員1人の職員2人とアルバイト1人となっています。

## 9. 職員の給与

2023年3月末現在、事務局長月額29万5千円、期末手当2か月分（年2回7月期、12月期支給）、また事務局員20万5千円、期末手当2か月分（年2回7月期、12月期支給）となっています。

### ＜1年間の主な出来事＞

- 2022年 4月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第156号発行
- 2022年 5月 中旬 「地球にやさしいカード」による2020年度下半期の助成
- 2022年 6月 1日 2021年度環境諸問題研究・活動報告書発行
- 2022年 6月 3日 理事会を開催し、2021年度事業報告書案及び同決算書案を全会一致で可決
- 2022年 6月23日 評議員会を開催し、2021年度事業報告書案及び同決算書案を全会一致で承認
- 2022年 6月27日 理事会を開催し、理事長に大石正光理事を全会一致で選定
- 2022年 7月 1日 「地球にやさしいカード」による2023年度助成受給団体の募集案内開始（受付期間は8月1日から9月30日までの2か月間）
- 2022年 7月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第157号発行
- 2022年10月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第158号発行
- 2022年11月 初旬 「地球にやさしいカード」による2022年度上半期の助成



- 2022年11月11日 「地球にやさしいカード」助成事業第14回研究・活動報告会を開催
- 2022年11月15日 「地球にやさしいカード」による2023年度助成団体選定のための審議委員会を開催
- 2022年11月29日 理事会を開催し、「地球にやさしいカード」による2023年度助成団体を全会一致で可決
- 2023年 1月 5日 機関紙「緑の地球新聞」第159号発行
- 2023年 3月 6日 理事会を開催し、2023（令和5）年度事業計画書案及び同収支予算書案を全会一致で可決
- 2023年 3月27日 評議員会を開催し、2023（令和5）年度事業計画書案及び同収支予算書案を全会一致で承認

2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2023年6月

公益財団法人緑の地球防衛基金